

## 広島県集落対策に関する検討会議（第4回）

日 時 令和5年12月1日（金）10:00～12:00

場 所 広島県庁北館2階 第2会議室

### 1. 開会

作野座長より開会挨拶。委員の出欠について

出席：作野座長、浦田委員（オンライン）材木委員、清水委員、早田委員、沼尾委員（オンライン）

欠席：山田委員

### 2. 議題

- (1) 広島県における今後の集落対策最終取りまとめ素案について 【資料1】
- (2) 協力2町における調査結果について 【資料2】
- (3) 最終取りまとめに向けた整理事項について
  - ア. 最終取りまとめの目次構成（案） 【資料3】
  - イ. 中山間地域の価値の再認識と集落対策の必要性（案） 【資料4】
  - ウ. 集落対策の検討に必要な財政見通し（案） 【資料5】
  - エ. 将来集落機能の低下が見込まれる地区・集落への対応（案） 【資料6】
  - オ. 無住化が懸念される地域の管理方策の整理（案） 【資料7】
  - カ. 取組項目の精査 【資料8】
- (4) 今後の会議予定について 【資料9】

### 3. 意見交換

#### (1) 広島県における今後の集落対策最終取りまとめ素案について

構成員 ・第6節の検討課題と第5節のヒアリング調査結果の内容が、重複しているように見えるため整理が必要ではないかと思った。

座長 ・第6節は集落対策における主な検討課題を出したということで、5節はその前提となる調査等の意見の整理ということであるため、繋がっている、重なるというのはある意味必然的かもしれないが、表現等の問題もあると思う。

#### (2) 協力2町における調査結果について

構成員 ・一昨年の調査では、住民自治組織の次の会長等、幹部役員の目星がつかないところが全体を通して8割くらいあり、大きな問題であった。今年度の調査ではどうだったか。

構成員 ・9ページの「エ. 地域差が見られる新たな担い手の確保」の3行目、「移住者やUターン者」という表記であるが、Uターン者も移住者なのか、IターンとUターンなのか分からないため読み手に分かりやすくした方が良い。

座長 ・結婚されて来られた方はあまり移住者として捉えておらず、新規に単身やご家族で入られる方を移住者というのかもしれない。語句を整理しておく必要があると思う。

### (3) 最終取りまとめに向けた整理事項について

#### ア. 最終取りまとめの目次構成 (案)

##### イ. 中山間地域の価値の再認識と集落対策の必要性 (案)

- 構成員 ・ 中山間地域と関わりがない人が、より明確に、取組みについて頭に思い浮かべた上でこれを読み進めることができるように、イラスト、図、写真などを入れて、それが描かれた状態で読み進めていただきたい。
- 構成員 ・ 序章は、この報告の位置づけのようなことを言っていると思うが、2ページの最後のところに、協働が必要だと言っており、中山間地域に入ってきてくださいと言っているように読める。今回は、第Ⅱ期の振興計画から残されたところを検討しているため、その部分は明確に切り分けられた方が読み手からすると分かりやすいと思った。
- 座長 ・ 第Ⅱ期の中山間地域振興計画の枠組みがあり、なかなか新規項目を加えにくいということである。資料4は序章であるため、少し格調高く記入があり、そこに齟齬を感じるという指摘であったと思うため、上手く整理していきたいと思う。
- 構成員 ・ 集落対策の必要性の根拠であるが、集落対策を何のためにやるのかというところの文章を改めて整理する必要があるのではないかと思った。

##### ウ. 集落対策の検討に必要となる財政見通し (案)

- 構成員 ・ 人口減少あるいは事業所の閉鎖等により税収減になることはありうるが、財政規模は最終的には地方交付税をはじめとした国からの財源保障の水準により決定する。国の様々な支援メニューを把握し、上手く活用していくような仕組みも必要であり、今回そのことを書き込んでいただいたことで、概ね整理されたのではという印象を持っている。
- 構成員 ・ 財政面では、自主財源がどうしても少なく、国からの交付金に頼らざるを得ないというところが出てくる。これから森林税なども中山間地域の財源になってくると思う。
- 構成員 ・ 森林税の活用、地方創生交付金の活用、地域おこし協力隊や集落支援員などの採用による人件費確保策などの支援策の活用を考えることも大切である。地域で働いて暮らしていくことを可能とする経済循環を維持する仕組みを考えるに当たり、財政とセットで考えていくことが必要である。

##### エ. 将来集落機能の低下が見込まれる地区・集落への対応 (案)

- 構成員 ・ 指標の中で高齢化率というのは65歳以上だと思うが、現在は65歳でも若手のようになっているところもある。そのため、これら世代を現役世代と捉えたときには70歳や75歳以上の区切りにした方が良いのではないか。
- 構成員 ・ 指標を出せるのかが一番気になるころではある。
- 構成員 ・ 集落の現状を把握することに使うのか、これをどのようなメッセージを入れて打ち出すのかということが重要ではないか。集落の現状を認識した上で、そこからどうしていくのかという時の選択肢を県や市町がしっかり提示し、中山間地域に対する支援策を県としてどのように打ち出せるのかということとセットで示していくことが非常に大事だと思う。ミスリードにならないよう書き方を工夫することが重要である。

- 構成員 ・ 将来見通しに向けた指標と目安であるが、同じような人口や高齢化率であっても、未来向けの指標を持っていることにより掛け算が行われ、将来見通しに向けた数字が変わってくるのではないかと考えている。
- 構成員 ・ 定性的なものを入れれば入れるほど当然分かりにくくなる。みんなで考えるべききっかけの数字であるということにしながら、定性的なことも加味するくらいの組み合わせの中で判断できるようにしておいたほうが良いのではないかと。
- 構成員 ・ 安芸太田町や神石高原町の集落組織で、あるいは広島県の中でもいいが、地区が全体として機能しなくなった地域はあるのか。事例も出した上で、指標を考えることが重要なのではないかと。
- 座長 ・ この検討は県の検討であるということで、県が市や町、住民に発するメッセージである。それから、実際にオペレーションしていくのは、県も全体的に行っていくが、市や町が中心にならざるを得ないだろうと考えている。座長としての個人的見解は、3段階くらいに分かれるということを出すだけでも大きいメッセージになるのではないかと考えている。これは指標、数を出してしまうと、恐らく数が一人歩きするだろうと思う。しかし、段階だけで言うと曖昧であるため、今回集落レベル、地区レベルで指標を出されている。a~hのような項目の値は出さなくても指標を出すということで、集落住民や自治体が想定する数字を念頭に置くというような作業ができるわけであり、そのようなきっかけには十分ではないかと考えている。

#### オ. 無住化が懸念される地域の管理方策の整理（案）

- 構成員 ・ 所有者不明土地の発生防止のところ、地籍調査、境界明確化の推進などと書いてあるが、これは現実的には難しいと感じている。地籍調査は既に行っている市町もあるが、非常にお金や時間が必要である。
- 構成員 ・ 既に無住化している地域については、どのようにしていくのか、同じように整理するということが良いのか。
- 構成員 ・ 相続の話であるが、将来管理することが出来なければ国有化するというような話も出ている状況の中で、その辺りの見解はあるか。
- 構成員 ・ 地域の土地などの状況を把握して地図に落としこみ、課題を整理することは大切である。それは恐らく中山間地域だけの問題ではないだろう。市町がどのように地域の状況を把握する体制を作れるのか、あるいは県としてそれを支援する体制を作れるかが重要になってくる。市町の管理構想と地域管理構想をどう組み合わせるのかということを含め、無住化が懸念される地域の状況を適切に把握する必要があることを書いておくことが必要だろう。

#### カ. 取組項目の精査

- 構成員 ・ 10年以内に自動運転技術が進むとしたら、道路整備と電波が届かないことで研究を進める上でも支障になっており、そういったことを整備していくことで中山間地域の住み続けられる地域を守れるのではないかと考えている。緩やかに現在の暮らし方を変えていきながら、中山間地域が住みやすくなっていくというようなことを書き込んでどうか。
- 構成員 ・ 最初のページの「ライドシェアリング」というのは、「交通空白地有償運送事業」と同じ発想になるのではないかと。

- 構成員 ・人材を受け入れるための体制・窓口が社会や経済を繋いでいくためには必要。そこで、こうした機能を継続する上で必要となる基本的な人材受け入れという視点に立って、基盤整備の話を入れても良いのではないかと。
- 構成員 ・民間サービスを入れられる環境をどう作っていくか、テクノロジーを規制緩和して導入していく方が、行政としては重要なことになるのではないかと。これは最低限のことを決めるという文書と聞いているため、そこを記載できるかどうかは分からないが、基本的にそうしなければ、公共の税金を使って全てやることは難しいため、環境整備、規制緩和といった内容は記載した方が良いのではないかと。
- 構成員 ・10 ページにある住民自治の支援機能であるが、実際に調査をして、住民自治組織側から今後住民自治組織の支援機能が必要になるというような声はあったのか。ここが今後どのくらい導入されるのか、また再構築ということはどういうことなのかは気になっている。
- 座長 ・本日議論になったように、住民自治組織を担う人材がないということもあるため、その辺りの研究がもう少し必要なのではないかと。

以上